

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600176		
法人名	有限会社 佑紀苑		
事業所名	グループホーム 佑紀苑		
所在地	佐賀県杵島郡白石町大字福富3125番地2		
自己評価作成日	平成30年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年4月6日	外部評価確定日	平成30年6月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「やすらぎと安心の楽しい生活を私たちと一緒しましょう」という言葉を掲げ、家庭的な雰囲気のある生活を過ごして頂けるように日々努めています。ご近所への買物や季節のお花見などのドライブ等も可能な範囲で楽しんで頂き、人生の先輩として時にはアドバイスを頂いています。スタッフも皆様と共に同じ時間を楽しみにして佑紀苑に通勤しています。スタッフが長年殆ど変わらず、和気あいあいと働けているところをアピールしたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

理念に基づき「私たちと一緒しましょう」と謳い、実践にも努めている。すぐに手を貸すのではなく、出来る事はやっていただくという見守り支援のあり方も残存能力の維持へと繋がっている。一日の流れの中で、決められた担当業務に拘らず、出勤者同士の裁量に任せていることは職員の力量にも表れている。終業時間が守られていることがその例である。チームワークの良さは各々の臨機応変な対応をカバーし、離職者が少ないことは利用者にとって安心感を生んでいる。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中のひとつの家として、やすらぎと安心の楽しい生活を私たちとご一緒にしましょう」の理念を念頭に置き、入居者様との日々の生活を大切にしている。	開設して15年が経過し、事業所の理念も当初のものから見直しもされている。職員によって創り上げられた理念は、目に付く場所へ掲示され意識付けを図っている。「私たちとご一緒にしましょう」と結んでいる通り、忙しなく動きケアをするのではなく、穏やかに一人ひとりに向き合ったケアを心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一年を通して清掃活動等には地域の一員として参加している。	自治会に加入しており回覧板からは地域の情報も得ている。「地域の中のひとつの家」として行事等には積極的に参加しており、祭りの時には浮立の立ち寄りもある。また、野菜の差し入れを受けたり、地元に住む職員もいて、事業所の存在は近隣住民にも認識されている。見守りや連絡等を頼める関係は築けている。今後は専門知識を活かした地域貢献や、回覧板を利用した発信も検討中である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の文化祭や、中学校の行事、苑内の行事にて地域の方々と交流を深めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場、民生委員、区長、ご家族と2ヶ月に一度の運営推進会議にて意見交換を行っている。	約一時間の会議である。外部の人の目が入る貴重な機会であり、自由に意見交換が出来るよう努めている。メンバー同士が顔見知りとなり、行政側の出席もあることから相談し合う場面もある。会議をきっかけとして交流が深まることは望ましく、地域住民との繋がりが理解者、応援者も少しずつ増えている。平日の開催であるため家族の出席は難しいが、近隣住民などの参加も検討している。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、事業所の様子を伝えたり、市町村からの地域の取り組みを聞いたりしている。	町の職員は、運営推進会議メンバーでもあり普段から顔馴染みである。相談事は直接会って話す事が多く、丁寧に対応してもらっている。行政側からは研修情報も届けられ協働関係は築けている。また、介護相談員も受け入れており、年3回、ふたりの相談員が訪れている。2時間程の滞在で、利用者との会話が主になるが、事業所との橋渡し役としても期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止に関する研修に参加し、会議にて職員に報告し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は日中は開放している。	職員は身体拘束の内容とその弊害も理解している。年に一回は外部研修にも参加し、受講した職員は勉強会等で伝達講習を行い、職員全員に周知している。玄関に施錠はなく、職員が目配り等で安全な暮らしが支援されている。外へ出る利用者がいても一緒に歩き、行動を抑えることはない。職員会議でも注意喚起を行う事としている。また、普段の言葉遣いにも各々の自覚を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に高齢者虐待に関する研修に参加して、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方の支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、退去時には十分な説明を行い、理解して頂けるようにしている。また、何時でも気軽に相談して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの作成時や運営推進会議にてご本人やご家族の意見を聞きながら 今後の運営に反映させている。	毎月の利用料は、届けてもらうことにしているため家族の来所は多い。遠方の家族とは電話での連絡もある。職員は直接話ができる機会を大切にしており、世間話も交えながら話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、訪れる家族にも高齢化がみられ、健康面などにも配慮をし、声を掛けている。家族会はないが、苑行事には案内を出し、家族同士の交流が出来るよう配慮している。事業所に対する意見や苦情等には真摯に耳を傾ける姿勢があり、外部の相談窓口は書類に明記されており、説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に話し合う機会を設けて 今後の運営に反映するようにしている。	職員会議は月に一度、2時間程を費やして開いている。休みの人も出席しているが強制ではない。カンファレンスや行事等の打ち合わせが主な内容で、限られた時間をスムーズに進めるための工夫もある。会議で取り上げてほしい事は日頃から聞くようにしており、申し送りノート等から拾う事もある。また、管理者としては働き易い職場であるよう配慮も必要で、職員とのコミュニケーションや休みの希望には出来るだけ沿えるよう心掛けている。一日の流れの中で出勤者同士の裁量に任せた担当業務の臨機応変さも特長である。現場の声は管理者を通して法人の上席にも届けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの個々の希望をとっている。働きやすいような環境を維持できる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り年に数回様々な研修に参加して、職場に持ち帰り 情報を活用できる様に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の5つの事業所と3カ月に1度の管理者会議にて情報交換を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の意見をお聞きしながら話しやすい雰囲気心を掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	他の医療機関などと連携しながらご本人様とご家族様が安心ある生活を送られるよう支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	充分な話し合いを行いながら、必要とされている支援を見極め、ほかのサービスも考慮しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何か役割を持って頂きながら 料理や裁縫等を一緒にやる機会を設けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	安心して頂けるように密に連絡を取り合うように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも面会に来て頂けるようにしている。なじみの美容室にも時々出かけられたり電話の取り次ぎもおこなっている、	入居までの人間関係は本人や家族、担当のケアマネージャー、また、利用していたサービス事業所や病院関係者からも話を聞き、情報を集めている。それらを元に具体的な例として、馴染みの美容院へ通うことや電話の取り次ぎなどが支援されている。最近は少なくなったが年賀状や絵手紙を書き、近くのポストまで出掛けることもある。家族の協力を得て、盆正月の帰宅や墓参り、法事への出席なども実現している。通院など外出の途中で墓所近くを通る時は車窓からでもお参りをしてもらい、利用者の想いに応えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時にはスタッフが中に入りながら いろいろな方と接して頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の気持ちを大切に必要に応じた支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様の要望を大切にしたケアプラン作りに努めている。	利用者が想いを話されるのは入浴中の寛いだひとときなど、一対一で傍にいる時が多い。隣りで話し相手をしている時も同様である。発語の少ない利用者とは日頃の傾聴を大切にしている。聞き取った事は口頭や申し送りノートを使い共有され、そこからケアプランに反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に十分名なアセスメントを取り、ケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態を把握し、スタッフ間で共有しながら暮らしの状況の把握が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	様々な意見を出し合いながらより良いケアが出来るようにしている。ご家族にも面会時や電話などで要望をお聞きしている。	ケアプランの設定期間は、入居して間もない頃は2ヵ月毎、3ヵ月毎と短期間である。その後、利用者の状況により6ヵ月毎などが設定される。その間に変化があれば臨機応変な見直しも行っている。毎月末にモニタリングを行い、設定期間毎に評価も行っている。本人の希望は日頃のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取るようにしている。家族からは現状維持を望む声が多い。残存能力を活かし、出来る事は任せ、見守るケアを行っている。家族の、サービス担当者会議への同席は少ないが、来所時に説明をし、意見を聞いている。課題から目標を決め、そのための支援内容があり、日々の記録簿ではその実施を確認している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や申し送りノート、スタッフの意見を生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り要望に添えるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方のご協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な受診が出来るように支援している。	現在のかかりつけ医は協力医であったり、以前からの馴染みの医師であったり、利用者が希望する医療が受けられるよう支援している。他科受診で病院を選択する際も本人や家族の要望に沿っている。受診に家族が付き添う場合は、日常のバイタル等を持参してもらい正確に医師に伝わるよう配慮している。また、職員が付き添う場合の結果報告は出来るだけ当日中を心掛けているが、変化がなければ来所時を待つこともある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化があれば看護職員やかかりつけ医、訪問歯科へ相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に伺ったりしながら、ご家族様と医療関係者と連携を取りながら早期の退院が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に関わる指針の説明と同意を得ている。	これまでに看取りの経験はないが、希望があれば応える用意はある。入居契約時には指針を説明し、内容や手順にも触れている。容態の変化に伴い揺れ動く家族の気持ちを踏まえ、何度でも話し合いを重ねる事としている。また、職員のフォローも大切で、ターミナルケア開始時期には勉強会も予定している。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応に関する研修に参加し速やかに対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜の災害を想定した避難訓練を実施している。	年2回の訓練は午前中や夕方にも行い、夜間は想定のみである。近年は消防署ではなく、消防機器業者に立会いをお願いしている。民生委員の参加もあり、利用者も一緒に避難訓練している。職員は消火器や火災通報装置の使い方も承知しており、非常食や水、寒さを凌ぐ物の備蓄もある。今後の検討項目には近隣住民への周知や参加協力の依頼、また、家族へ一次避難場所の再確認などを挙げている。回覧板を利用した周知も検討中である。訓練後には反省会があり、気づき等は速やかに改善されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	思いやりのある温かい言葉かけを行うようにしている。	トイレや入浴の介助では羞恥心への配慮が最も必要な場面である。ドアを閉める、見え難い立ち位置でのケアなど基本的な事をきちんと行っている。接遇の研修もある。また、個人情報取扱いに対する職員の意識は、浸透はしているものの大きな声でのやり取り等は日々細かく注意し合っている。居室の名札やスナップ写真の掲載でも入居時に説明を行い承諾を得ている。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望などを話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご本人様のペースに添った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室へ行かれたり、使い慣れた化粧道具を使って頂いている。一緒に着る服を選んだり、その人らしいおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフは一緒に買物をしたり、準備、昼食を食べる中で、好み等を把握している。食事が楽しみになるように工夫している。	事業所では食材の宅配サービスも利用しているが、殆どは独自に提供されている。献立は利用者に食べたい物を尋ねながら職員が考えている。買物に同行したり、準備を手伝う利用者もある。好き嫌いやアレルギーの有無の把握もしており、苦手な食材の時には代替えもある。なかなか箸が進まない利用者には声を掛け、スプーン等も工夫し、出来るだけ自分で口へ運んでもらいたいというケアである。高カロリー食の常備もある。誕生日は当日に祝い、リクエストされた食事やケーキが用意されている。食事時、職員は利用者の隣りに座り、声掛けや介助を行いながら一緒に食事をしている。献立や味付けが話題となり、和やかな食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた食事と量に気を付けている。水分摂取量についてもお一人お一人の状態に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアを行いながら清潔保持に努めている。異変があれば歯科医に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人お一人に合わせたケアを行っている。	排泄に関して、尿意も分かり自立した利用者も若干名いるが、任せたままでではなく、さり気なく見守っている。チェック表があることでタイミングが計れ、タイムリーな誘導も出来ている。オムツやパット類の使用枚数が減ったり、リハビリパンツから改善した例もあり、利用者にとって費用負担の軽減にもなっている。トイレ内には両脇に手摺りを設置し、自立にも役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの取れた食事や水分量に注意している。便秘にならない様にスタッフと一緒に身体を動かし便秘を予防して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1番風呂が良い方、最後が良い方、シャワーで済ませる方など、要望に添えるように努めている。お湯の温度もそれぞれの好みに応じた対応を心掛けている。	入浴は週3回を目途にしているが、風呂の準備は毎日できているため、希望があれば利用可能である。嫌がられる利用者には無理をせず次回へまわすこともあるが、誘導を試みたり臨機応変な対応をしている。入浴しない日でも下着や肌着の交換をし、清拭等も行っている。入浴剤はよく利用され、利用者には寛ぎの時間となっている。また、冬場の入浴前には、脱衣場の暖気を浴室側へ送りヒートショック対策としている。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ、見守りながらの支援である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じて寝具の調節を行っている。安眠出来るようにご家族様にも協力して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日付や名前の記入を行いながら服薬の支援を行っている。何か疑問があらわれる時には薬局やかかりつけ医からの説明もして頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を生かして頂けるように気分転換して頂いている。カラオケ。編み物、読書、お話し等されている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調、天候、ご希望に応じた外出の支援を行っている。週に3回程度の買物に同校して頂いている。	本人から外出の希望が聞かれる事もある。ドライブは年間行事でも予定されているが、天候や体調をみて当日に決まり、出掛ける事もある。車椅子利用者もいるが、介護タクシーの利用で全員が一緒に出掛けられている。日常的な周辺の散歩では、五感の刺激や日差しを浴びることが出来ている。殆ど外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人お一人の希望や力に応じた金銭管理を行っている。買物の時にはご自分でお支払いをして頂きながら買い物を楽しませている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から電話をかけられる時には支援している。かかってきた電話にもきちんと出られるように寄り添う時もある。年賀状や絵手紙のやり取りも時には支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暮らしの中に花や植物を飾り、季節感を感じて頂けるようにしている。そこから会話が生まれたり、自宅の庭を思い出される時もある。強い香りや花粉、音等には配慮し気分よく過ごして頂けるように努めている。	利用者が一日の殆どを過ごすリビングには、一人掛けや複数で座れるタイプのソファが置かれ、各々好みのタイプで寛いでいる。対面式キッチンからは調理の音や匂いがして食事を知らせている。廊下に通行を妨げる物はなく、歩行練習など運動をする利用者もいる。時には戸を開け換気をし、利用者が手を触れる箇所の消毒もこまめに行っている。南向きのリビングではヨシズを立て掛け、夏の日差し対策にしている。国道沿いではあるが騒音はあまり気にならない。浴室やトイレはきれいに掃除され不快な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにゆったりと談話して頂けるような居心地の良い空間をつくっている。各室個室であり、お部屋でも寛いで頂けるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具など使い慣れたものを持参して頂き心地良く過ごされるようにしている。	火気などの危険物以外に持ち込む品物の制限はしていない。使い慣れたタンス等が置かれ、居心地よく過ごせるよう配慮している。掃除は毎朝職員が行うが、出来る事を手伝う利用者もある。窓を開け換気もしている。写真が飾られていたり、四季を感じる置物など季節毎に交換していく家族もある。宮付きベッドのため枕元に写真を置く利用者もあり、それぞれに応じた配慮が窺える。また家族の希望があれば宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を目指し手安全に配慮した上での介助を行えるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない